

牧場の朝

杉村楚人冠／作詞
船橋栄吉／作曲

ただ二面に立ちこめた

牧場の朝の霧の海

ホブラ並木のうつすりと

黒い底から 勇ましく

鐘が鳴る鳴る カンカンと

もう起き出した小舎小舎の

あたりに高い人の声

霧に生まれ あちこちに

動く羊の 幾群れの

鈴が鳴る鳴る リンリンと

今さし昇る日の影に

夢からさめた森や山

あかい光に染められた

遠い野末に 牧童の

笛が鳴る鳴る ピイピイと



られたもの。時計が現在ほど普及して
いない時代、朝・昼・晩、作業
のはじめと終わりに
鳴らされてい
た鐘は、美しい余
韻を残しながら
牧場内に響きわ
たつていきました。
半世紀以上にわた
り牧場で働く人々に
時刻を告げ続けた鐘は、
今はその役割を終えて、牧場事務所
内で静かな眠りについています。

町のシンボルソングとして
町中の人々に愛され、親
しまれている「牧場の朝」。
朝と昼には、町中に「牧
場の朝」のメロディが鳴り
ひびき、人々に時刻を告
げています。

町では、毎年12月に行わ
れる「牧場の朝ロードレ
ス大会等、「牧場の朝」に
ちなんだイベントも行な
われています。また、毎年
10月にはオランダと日本
の友好を記念したオラン
ダ祭りを開催。当日は町
中の人々が参加し、いつも
はのどかな町内が浮き立
ちます。



健脚を競い合う「牧場の朝」ロードレース大会



鳥見山公園内に建立された「牧場の朝」の歌碑



町のいたるところで見られる
かわいらしい鐘